

第2学年英語科学習指導案

時間・場所 公開授業③ 2年5組教室
 学 級 2年5組 32名(男子15名,女子17名)
 指 導 者 四戸岸 茜音, ALT ブリア ウォーカー

1 単元名 My Project 5 「スピーチをしよう—こんな人になりたい」
 (開隆堂 Sunshine English Course 2 教科書P44)

2 単元について

本学級は、英語の授業に意欲的に取り組む生徒が多い。小学校で培った英語の音声への親しみを土台に、聞くことや話すことに前向きである。また、オリジナルのスキットを考えたり、与えられたテーマについての英文を書いたりする活動に積極的である。しかし、個人の能力差は大きく、基礎的な英単語や文法を苦手とする生徒もいるため、毎時間の英単語の書き取りテストや、英作文の個人指導を継続している。

本単元には新出の言語材料はなく、既習表現である接続詞 *if*, *when*, *because* や動名詞、不定詞等を活用して、自分になりたい「あこがれの人」を紹介するスピーチを行うことをねらいとしている。生徒たちは小学校外国語活動で、*Hi, Friends!*2のLesson8で *want to be* を使って将来の夢について話す活動に慣れ親しんでいる。生徒の中には、既に就きたい職業が明確な生徒がいる一方で、未定の生徒もいるため、「自分のやりたい職業」というテーマに限定してしまうと、英語学習以前に中身の部分でつまずいてしまう生徒が少なくない。そこで、家族などの身近な人や有名人、スポーツ選手など、自分があこがれている人を1人挙げ、自分の考えを述べるという形式にすることで原稿を作りやすくするための手立てとする。

全体の前で発表する活動は、1学期のMy Project 4「スキット作りを楽しもう」に続き、今年度2回目である。個人のスピーチは1年生でのMy Project 1「自分のことを話そう」、My Project 2「人を紹介しよう」に続き、3回目である。よりよいスピーチになるように各自目標を立てさせ、達成することを意識させながら活動に臨ませたい。そのために、グループでの交流を通して既習事項を効果的に活用させたり、聞き手を意識した発表になるように発表の仕方を工夫させたりして、達成感を味わうことができるように支援していく。また、発表を聞く時にも、他者の発表から良いところを見つけて自分の考えに取り入れていこうとする姿勢を育てたい。

3 単元目標及び評価規準

(1) 単元目標

- ・文構造や文章構成に注意して、あこがれの人について60語程度のスピーチ原稿を書く。
- ・書いた文章をもとに、適切な音声で、自分の考えが伝わるようにスピーチをする。
- ・自分の夢についてのスピーチ原稿作りやスピーチの活動に積極的に取り組む。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
自分の夢についてのスピーチ原稿作りやスピーチの活動に積極的に取り組んでいる。	① 文構造、文章構成に注意して、自分の夢について60語程度のスピーチ原稿を書く。 ② 伝わるように発表する。		

4 単元計画 (総時数4時間)

小単元名	時間	主な学習内容
My Project 5	1	モデル文の内容理解と音読。スピーチの構成を学ぶ。
	1	原稿の構想を考え、原稿を書く。
	1	4人グループで交流をして、原稿を手直しする。【本時】
	1	書いた原稿をもとにスピーチをする。発表を振り返る。

5 本時の指導 (3/4)

(1) 目標

聞き手を意識した原稿を仕上げる。

(2) 「振り返り」の工夫

スピーチの原稿を4人グループで交流させることにより、相手を意識した分かりやすいスピーチの展開の仕方を学び、自分の原稿をより良くするためにクラスメートからどんなことを学んだかを書かせる。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点と評価 ()
導入 8分	0 歌を歌う。 1 元気良く挨拶をする。 2 前時に書いた2～3人の生徒の原稿を紹介し、モデルとする。 3 本時の課題を把握する。 Today's Goal: 聞き手を意識した原稿を仕上げよう。	・教科書P74【今までに学んだ表現】(want to, 理由, 目的)を上手に使えている生徒の例を示し、支援が必要な生徒への手立てとする。
展開 32分	4 聞き手にとって分かりやすいスピーチにするために、教科書P73の構想を元に復習する。 「はじめに」: 話題提示 「展開」: 述べたいこと, 理由, 具体的なエピソード 「まとめ」: 結論, 前向きな気持ち 5 前時に書いた原稿の「はじめに」「展開」「まとめ」の部分を見直し、修正する。 6 4人グループになり、自分の原稿を読む。 7 良かった点や改善点を交流し合う。 8 友人の発表を元に自分の原稿を更に手直しする。 9 手直しした原稿を隣同士で交換し、読み合う。	・聞き手は文字の原稿からではなく、耳からの音声から情報を得ていることを押さえさせる。 ・「展開」のところに「理由」が入っているかどうか確かめさせる。 ・ALTは机間指導で、文法的な間違いを指導する。 ・聞き手のマナーとして、話し手の目を見る、拍手をするなどのマナーを確認する。 聞く人を意識した原稿を書いているか。【表現】 ・1人につき、最低1つはコメントをさせる。 ・友人の発表の良かった点や分かりやすかった点を自分の原稿に取り入れて良いことを指導する。 ・4人グループでの交流を経て、どこを変更したかを口頭で伝えた上で交流させる。
終末 10分	10 ミニノートに本時の振り返りを記入する。 ① 指示1分 ② 記入3分 ③ 発表2分 スピーチでは、構想を工夫すると聞き手にとって分かりやすいことが分かりました。○○さんは、理由を述べる時に First, Second と言ってから話していたので、初めて聞く内容でしたが、しっかり理解しながら聞くことができました。(第Ⅲ型)	・クラスメートから何を学んだかを入れるように指導する。 ・JTE, ALTから生徒の良かったところ、更に期待すること具体的に伝え、発表会への士気を高める。
	11 次時の予告を聞く。	